

朝鮮歴史

朝鮮中級学校 2・3

(日本語訳)



朝鮮中級学校『朝鮮歴史』の翻訳・刊行に際して

一、朝鮮総連が運営する朝鮮中級学校(中学校)の『朝鮮歴史』の近代史の部分全文翻訳し、世に出すことにした。この教科書は現在全国の朝鮮中学校で使われているものである。中級2と中級3の二冊に分かれている。原始時代から一九四五年の八・一五解放までを扱っている。このうちの現代史の部分全文訳した。(内容の詳細は凡例参照)。昨年四月の朝鮮高校教科書『現代朝鮮歴史』三冊の翻訳・刊行に続くものである。

二、昨年三月、民主党政府が高校授業料無償化をおこなった際に朝鮮高級学校(高校)も無償化すべきだとの声が上ががり、賛否をめぐり論戦がおこなわれた。奇妙にも政府・文科省は「教育の中身を問わない」との方針に固執し、初めに無償化ありきの態度で猪突したためにことが複雑になった。「人を殺す教育をしているオウム真理

朝鮮中学校歴史教科書が翻訳された

朝鮮高校への税金投入に反対する専門家の会代表

萩原 遼

コーヒー・ブレイク



いわもと よしたか



死者は生者に警告する

デア トートゲン ヴフル ヲンゲン フォア デム ダス レーベンゲン
Der Todten Warnungen vor dem Das Lebenden

日本のある理論経済学者(故人)が、1922年よりドイツに留学したときに覚えたプロイセン時代からの古いDas Sprichwort(諺)である。

この諺はいろいろの解釈ができるが「人間は生きているかぎり持っている能力を最大限努力して活かす事ができる」と、私は受け止めている。この学者は武者小実篤(1885～1975)の「勉強・勉強こそ奇跡を生む」という箴言を好んで自著等に引用していた。

勉強とは、書物を読み書きすることだけではなく、行動や経験から学び、そのことを自らの生き方に活かすことである。映像作家松山善三に「名もなく貧しく美しく」(61年東京映画制作・東宝映画配給)という作品がある。日本の敗戦直後の困難な時代に生きた聾啞者夫婦とその子の物語である。聾啞者を親に持つために差別を受けた若者の苦悩と救済を描いた物語であるが、聾啞者をたんに社会の犠牲者としてではなく、そのエゴイズムまで描いている点が秀れている。

昨年末この夫婦役を演じた小林桂樹と高峰秀子が相次いで亡くなった。俳優の人物評はすでにマスメディアが伝えているが、先天・後天を問わずさまざまな障害者がこの社会で「名もなく貧しく美しく」生きていくことは、古近東西を問わず至難のことである。

アフォリストとして知られる日本の作家芥川龍之介(1892～1927)は「人生とはマッチ箱に似たやうなものである。丁重に扱うのは罵迦々々しい。しかし丁重に扱わなければ危険である」(佚儒の言葉)と結んで自害した。

教の学校にも金を出すのか」との反対論もでた。

三、「教育の中身を問わない」という政府の方針に対し、議論を中身に即したものにすべく、朝鮮問題を長く研究してきたわれわれ専門家の側から、ハングルで書かれた朝鮮教科書を日本語に全訳し議論の参考に供したいのである。

四、この結果、朝鮮戦争にかんする誤った教育や、日本人拉致問題でひと言の謝罪もなく逆に日本が、反朝鮮人騒動を引き起こしているという居直りなどが明らかになった。国会でもマスコミの上でも、中身をめぐり議論となり公正な論争に貢献した。

五、議論の当然の結果として、中学校では歴史をどう教えているのかの聲が高まり、それらに答えるために今回の刊行となった。

現代史の半分が金日成の個人史と金日成一家の家系史である。しかも、金日成の抗日戦争なるものがソ連や中国の成果を横取りしたものである。植民地朝鮮を解放したのはソ連軍であることは世界の常識であるが、中学校の教科書はこう書いている。

「敬愛する金日成主席様におかれては、一九四五年八月九日、朝鮮人民革命軍の全部隊にたいし祖国解放のた

めの総攻撃命令をお下しなされた。……朝鮮人民革命軍

部隊はソ連軍隊との緊密な連携のもとに日本帝国主義が誰も打ち壊せないと大口をたたいた国境の要塞に強い打撃を加えいつきに破壊し、豆満江を越えた。……日本帝国主義はポツダム宣言を受諾し、最後の攻撃作戦が始まって一週間もたたない一九四五年八月十五日に無条件降伏した」(翻訳本の一四六―一四七ページ)

朝鮮人民革命軍という部隊があったことも、金日成が総攻撃命令を下したことも事実ではない。この時期金日成はハバロフスクのソ連軍の兵舎に囲われていて何もせず、日本降伏の一カ月後の九月末にソ連軍に連れられて平壤入りするのである。抗日闘争の時期の金日成の活躍ぶりもその多くは中国の成果を横取りしたものである。

六、いうまでもなく教育の目的は真実を教えることである。平和を愛し、人びとに役立つ人間になるためである。虚偽を教え、子どもたちを誤った方向に引き入れることが教育と言えるのか。個人崇拜と旧社会の王朝造りと世襲制度を肯定し、核脅迫で生き延びを圖る北朝鮮政権を美化する教育に対し、なぜ日本国民が公金を出さなければならないのか。

七、朝鮮総連と朝鮮学校は、日本政府が公金をくれないのは「朝鮮人差別だ」「教育の機会を奪うものだ」と主張し、連日のように子どもを街頭に立たせたり、朝鮮総連メンバーやその取り巻きを動員して圧力をかけている。彼らがまずやるべきことは、どんな教育をおこなっているかを日本国民の前に公表することではないのか。

われわれ専門家の手を煩わせることなく自分たちの手ですべての教科書を日本語に翻訳し、公金を受け取るに値する教育であるかどうか判断を求めることではないのか。それらをやらす教科書をまるで秘密文獻のように隠ししまい、われわれの手に入ったとして執拗な追跡調査をおこない生徒を困らせている。

八、今回の翻訳・刊行は、こうした朝鮮総連の態度に反省をうながすとともに、文科省の「教育の中身を問わない」という方針がいかんにか誤っているかを明らかにするためである。朝鮮学校のある各都道府県や市では年間八億円の補助金を支出している。これが正当であるかどうか、この教科書にもとづいて判断されることを期待する。

九、著作権法に抵触しないのかの意見もある。著作権法が保護する著作物は「日本人の書いたもの」に限られる(著作権法第六条)。文化庁の見解では「国交のない

国のものはこの保護を受けない」としている。また、朝鮮総連傘下の「学友書房」が発行するものを勝手に翻訳してよいのかの意見もある。日本の公金を要求する以上日本国民には知る権利がある。

著作権を問題にするには著作権者がだれかを特定しなければならぬ。北朝鮮当局の承認なしには発行できない教科書である。真の著作権者である金正日を日本の裁判所に引き出すしかない。その場合われわれは受けて立つ。

十、翻訳にあたっては原文に忠実に訳した。写真や図表の位置、ページ数もすべて原書通りに配列した。ただし不要と判断した地図などは翻訳を省略しハングルで残したのも若干ある。巻末の索引は省略した。

原文は漢字を廃したハングル表記であるが、漢字を常用する日本では地名や人名がカタカナ書きでは読みづらい。北朝鮮当局の過去の文獻にも可能な限りあたって彼らの発表した漢字で復元した。

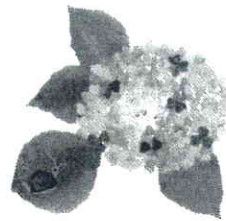
十一、われわれの立場と行動は朝鮮学校の生徒を差別するものではない。真実と平和を愛し、日本人をはじめ世界の国民と手を取り合い、共生を求める人間に育ってほしいという教育の普遍的な理念から出発するものである。

この翻訳・刊行が公正な論議のたたき台になることを期待する。

二〇一一年三月七日

朝鮮高校への税金投入に反対する専門家の会

代表 萩原 遼



〈凡例〉

朝鮮中級学校『朝鮮歴史』は、中級2が一〇〇ページ、中級3が二二八ページ、中級1というのはなく、歴史の学習は中級2から始まる。中級2の第一章から第六章までは翻訳を省略した。(その目次は以下である。第一章、わが国の歴史の始まり。第二章、三国の成立と発展。第三章、渤海と後期朝鮮。第四章、統一国家高麗。第五章、朝鮮王朝の成立と発展。第六章、朝鮮封建社会の変化)。

中級2の第七章から第九章までを『朝鮮歴史』中級3と合わせて一冊にした。これらの措置は、古代史から近世までを省略し、もっとも歪曲されている現代史の部分を浮き上がらせるためである。

原書の発行：「学友書房」(東京・板橋区)

編纂者：「総連中央常任委員会教科書編纂委員会」

朝鮮中級学校『朝鮮歴史』を読む

民生団 抗日戦争の連合赤軍事件

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会 代表

三浦 小太郎

金正日は白頭山で生まれた？

朝鮮中級学校の、二年生および三年生用の歴史教科書が、星への歩み出版から発行された。私は、朝鮮高校のすでに出版された一、二、三年生用の教科書はすべて読ませていただいたが、「読書の苦しみ」と言うものをこれほどまでに味わったことはない。朝鮮戦争を引き起こし、恐怖の収容所体制を敷き、拉致をはじめとするさまざまなテロ行為を行った金日成、金正日を朝鮮史上もつとも偉大な人物として礼賛する本を三冊も読むというのは膨大な精神的苦痛をとまなうのが当然である。

そして、このたび翻訳された『朝鮮歴史2・3』の内容容もおおむね同様の金日成礼賛だが、多感な中学二年、三年の時期を、生徒たちは日韓併合前後から抗日戦争、

そして第二次大戦の終結と朝鮮の「解放」を学ぶこととなっている。その内容は他の論者も触れることと思うが、これまたトンデモ史観としかいいようがないものとなっている。

私がちよつと笑ってしまったのは「敬愛する將軍様の誕生」(一二三ページ)の記述だ。すでに金正日がロシアで生まれたことはおおよそ北朝鮮に関心がある人なら皆知っている事実だと思うのだが、この教科書では白頭山で生まれたことになっている。

「日帝との最後の決戦のための準備が着々と推進されていた時期の一九四二年二月十六日、敬愛する金正日將軍様におかれては白頭山密営で誕生された。朝鮮人民革命軍の隊員たちは、「ああ、朝鮮よ！ 同胞たちよ！ 白頭光明星の誕生をここに知らせる！」「二十万同胞よ！ 白頭山に白頭光明星が独立天出竜馬に乗って出現し